



European
Patent Office

A publication of the
European Patent Office
ISSN 1024-6673

epidos news

esp@cenet で全文公報がダウンロード可能になることが、年次会議で発表される。



Alain Pompidou,
EPO 所長

esp@cenet で全文公報がダウンロードできるようになったことを紹介するために、EPO が選んだ会場は、今年の 10 月 25-27 日にかけてプラハで開催された 2004 年の EPIDOS 年次会議でした。



esp@cenet は、1998 年の開始以来、ドキュメント検索を、一頁毎に行なうことを基本にしてきたため、長年にわたって多くの批判を伴う人工的制限がありました。プラハの会議で、EPO 副長官である curt Edfjäll 氏は、残りの技術的問題が解決したらすぐに、



Heinz Zourek, 副長官、
DE エンタープライズ、
ヨーロッパ委員会
Wolfgang Pilch,
特許情報 主席長官、
Heike Bahrmann,
中央政府印刷

頁毎のダウンロードを全文公報ダウンロードに、一回のマウスクリックで変更可能にすると明言しました。

全文公報ダウンロード機能は、この年の会議における議題の広範なトピックスのひとつであり、500 人の参加者と、全ての特許情報業界をカバーする 43 人の発表者を魅了しました。

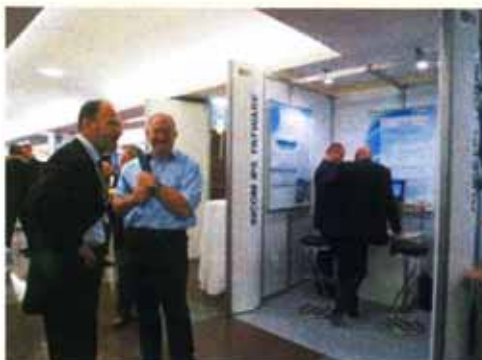


In this issue	
2	The European publications server
3	Editorial
3	SDS - the similarity discovery service
4	The IPC reform: how will it affect searching?
4	News from INPADOC
5	esp@cenet evolves to meet users' needs
6	Trade events 2005
7	The new epoline look and feel
8	Other news

4.2004

ページ 1 からの続編

下の表は、会議で取り上げられた主な議題をリストしたものです。EPIDOS ニュースは、来たるべき号でこれらの全容をお伝えするつもりです。



**ヨーロッパ刊行物サーバ：
オンラインでヨーロッパ特
許ドキュメントを提供しま
す。**

トピックス	概要
esp@cenet の全文ダウンロード化	esp@cenet における頁毎の特許文献へのアクセスは、2005 年の中頃までに全文アクセスに様変わりします。
esp@cenet の新しいリリース	esp@cenet の新しいリリース版には、EPO データベースに蓄積されている非特許文献の書誌的事項、オリジナル文書に対する新「拡大」機能、そして、最も重要な esp@cenet アシスタントが含まれています(下記参照)。
esp@cenet アシスタント	新しい esp@cenet アシスタントは、esp@cenet データベースと、全ての主要な esp@cenet 関数のためのコンテキスト指定モジュールにオンラインガイドを提供しています。
IPC 改訂	IPC 改訂(2006.1.1 に延期された)は、特許情報に携わっている全ての人たちに影響を与える膨大なプロジェクトです。EPIDOS ニュースは、この話題を、2005 年からずっと定期的な記事として採り上げてきました。
OPS	OPS は、自分自身のインターフェースを開発しようと思っているユーザに、EPO データへの直接アクセスを提供します。
工業所有権を若者にもたやすこと	児童のために設けた UK 特許庁の「THINK kit」は、大成功を収めています。EPO においては、five2twelve チームが、汎ヨーロッパレベルで、工業所有権を若者達にもたやす方法を見つけ出そうとしています。
XML	まもなく導入される WIPO の ST.36 は、XML フォーマットを使用しているデータ処理に全く新しいアプローチをもたらすことでしょう。そして、全てのデータベース提供者及びホストは、これらの変更に対応せざる終えなくなります。
新 EPO 特許情報ウェブサイト	新しい EPO 特許情報ウェブサイトが、2004 年 10 月 25 日にオープンしました。(patentinfo.european-patent-office.org)
東南アジア / 東ヨーロッパ	EPO の日本特許情報サービスは、高い評価を得ています。中国特許情報に対しても同じようなサービスが実施されることが正式に決定しました。続いて、韓国も後に続くことが期待されています。また、代表者達は、ロシアのサービスも設けてほしいと EPO に嘆願しました。
ペーパーレスオフィス	2005 年 1 月から、ヨーロッパ特許ドキュメントは、ヨーロッパ刊行物サーバ上で入手することが可能となります。そこでは、ドキュメント毎を基礎にした全文ダウンロード機能及びその他の特徴が提供されます。ヨーロッパ刊行物サーバは、下記のアドレスからアクセスしてください。 publications.european.patent-office.org
品質	2003 年以降の発展によって、熟練ユーザは、EPO データの品質が最高であること、したがって EPO は、他の特許組織内の品質向上に関与すべきである、と主張し続けています。



2005 年 1 月 1 日、ヨーロッパ特許庁は、ヨーロッパ刊行物サーバを導入し、すべての EPO 特許ドキュメントに無償でアクセス可能とする新オンラインサービスを提供します。2005 年春までには、このサービスがこれまでの紙ベース刊行物に取って代わることでしょう。そして、この紙ベース刊行物は、生産中止となるでしょう。

この新しいサービスのもと、全てのヨーロッパ特許ドキュメント(特許出願、登録特許および補正特許)は、SGML と PDF 形式で入手可能であり、さらに、後に、XML に変換可能な SGML 付きで入手できます。また、「Online European Patent Register」と「esp@cenet サービス」へのリンクも提供されています。光学ディスクと磁気媒体の ESPACE® シリーズ製品は、引き続き並行して提供されます。

ヨーロッパ刊行物サーバは、通常毎水曜日、14:00(ヨーロッパ特許庁の公式刊行物発刊日時)に更新されます。

サーバ提供開始時には、2004 年と 2005 年のデータが利用可能ですが、2004 年以前のデータは所定のサイクルで追加されます。

ヨーロッパ刊行物サーバは、既に、設置完了ですので、事前に見たいという方は、下記のホームページをご覧ください。

<http://publications.european-patent-office.org>

プレゼンテーション、主なスピーチ、討論フォーラムからの報告、および他の情報は、全て下記会議ウェブサイトから入手できます。

<http://www.european-patent-office.org/epidos/conf/eac2004/>

次年度の会議は、ハンガリー特許庁の招待で、2005 年 11 月 8-10 日、ブダペストで開催予定です。

editorial news



執筆時に、プラハにおける2004年度EPIDOS会議は終わりを迎えることでしょう。500人以上の登録参加者を迎えた

今年の会議は、全ての記録を塗り替えました。これに加えて、討論フォーラム、並びに総会での活発な討論、そして、全ての皆様が、魅力的な成功した会議の要因となっています。

モットー「私たちのサービスは優れている」に忠実であれ！ - 特許情報主席長官は、最先端にあるのはユーザのニーズであることをプラハで確信しました。MIMOSAバージョン5を含む数多くの新しい製品及びサービス、

新しい特許情報ウェブサイト、新しい esp@cenet 機能、esp@cenet アシスタント、EPO の e-learning プログラムが紹介されました。参加者は、また、2,3 ヶ月後に発行される、新しい刊行物サーバ、紙による刊行物の廃止、esp@cenet における頁毎から全文ドキュメントダウンロードへの移行を含む予告編を手にすることができました。

会議で取り上げられた最も有意義なコメントの一つに、パワーユーザーワークショップの議長、Peter Kallas 氏による言及があります。Kallas 氏による「コミュニケーションは、大部分の刊行物にとってキーである」との談は、これまで理解してきたメッセージでもあります。12 ヶ月後、私たちは、イベント並びにワークショップを実行します。そして、2005 年の最も重要な二つの事柄、IPC 改訂と XML 導入に関して郵送でお知らせすることになるでしょう。

この記事は、チェコ特許庁のスタッフに対し感謝の気持ちを表さずに筆を置くことはできません。また、彼らの提供及びサポートがなければ会議は成功を収めなかったと確信しています。

ブダペストで開催予定の次年度の会議を計画する時期がもう来しました。ハンガリーでお会いできることを期待しつつ、そこで、12 ヶ月間で成し遂げた事柄、将来へのビジョンを紹介したいと考えています。



Wolfgang Pilch
Principal Director
Patent Information

SDS - 類似性発見サービス

SDS とは何ですか？

今日、世界中で手に入る全ての特許文書が蓄積されたデータベースは、数百ギガバイトに相当する数百万ドキュメントを蓄積しています。そのようなデータベースに入っているデータは、既に、パブリックドメインであります。しかしパブリックが故に、その情報の豊富さに気づいていない人がたくさんいます。

この結果、相当数のリソースが「工夫次第で再発明となる事実」を無駄にしています。そして、何度も何度も特許出願をしてはみても、その度に、特許庁に類似文献を探し出されて、落胆しているのが現状です。特許明細書を出願する前(出願前調査)に、低コストで簡単な調査を提供するサービスは、リソースの無駄を低減することに寄与できます。これこそが SDS、類似性発見サービスです。

同じ技術概念をカバーする現存する特許ドキュメントを簡単な方法で調査し、可能性のある出願を提供することは、出願人にとって、更なる調査の必要性や、特許明細書を出願する前に、本当に新しいアイデアなのかを早期に

理解させることができます。価格を最小限に留めながら、SDS は、請求された発明にたいして「類似」している特許ドキュメントを探し出します。

EPO 国内特許庁の半数は、多くの企業、特許弁理士が持ったのと同じように、既に SDS を設置することに興味を抱いています。入札は実施され、近い将来、SDS 開発契約が取り交わされることでしょう。

どのように機能するのでしょうか？

ユーザは、最初に、アイデアまたは発明に関する技術説明を記載した申請書を用意します。次に、インターネットを介して EPO の国内特許庁にその申請書をメール(もちろん、セキュリティ付き送信)で送ります。

国内特許庁での形式審査後、申請書は EPO へ(再度、セキュリティ付き送信で)転送します。

本当に賢い話は次からです。システムは、自動的に技術説明を読み、そして、「理解」した後、そこから技術概念を抽出し、EPO のデータベースに存在する特許ドキュメント中の技術概念と比較します。

次に、類似性の程度に従ってランク付けされた「類似」ドキュメントのリスト結果を国内特許庁に返送し、さらに、もとの申請者にその結果を送ります。

本当に実行可能なのでしょうか？

これは、重要な質問です。

まず、SDS は、おそらく EPO のフルテキストのデータベースを利用した特別なデータベースを必要とし、定期的な更新が必要となるでしょう。

第 2 に、生産環境で最も信頼のおけるシステムのフィールドテストを行なった後、マーケットで利用可能な自然言語分析及び比較が十分に SDS で利用できるかどうかを決定するために、予備試験を実施しなければなりません。

もし、これらを全てクリアすれば、このタイプのサービスとしては、ユーザに提供できる世界最初のツールとなるでしょう。

詳しくは、plegonidec@epo.org の Patric Le Gonidec 氏まで。

IPC 改訂: IPC 改訂による検索への影響はどのようなものか?

過去に発行された EPIDOS ニュースの記事で、2006年1月1日に実施を予定している IPC 改訂の基本的な原則のアウトラインが紹介されました。ここでは、私たちは、特許サーチャーのために、IPC 改訂がもたらす役に立つ重要な点を 2,3 採り上げることになります。

改訂された IPC は、コアとアドバンスの 2 つのレベルを持ちますが、サーチを行なうときには、いずれのレベルを利用すべきでしょうか?

国際的なサーチ、例えば、全ての主要工業国の先行技術を検索することを目的としたサーチの場合には、最新版に従って詳細に分類され、PCT ミニマムドキュメントを含んでいるということから、アドバンスレベルが良いと思われます。国内サーチ、例えば、特定国のドキュメントを検索する場合には、通常、コアレベルで十分と思われます。

いくつかの小特許庁は、コアレベルのみでドキュメントを分類するでしょう。もし、アドバンスレベルで分類することに問題があるようならば、国内サーチをアドバンスレベルで行なうことは可能です。しかしながら、ドキュメントが高度でないサーチに対しては、コアレベルサーチは、より多くのヒットが得られること、分類原則において小さな変動に敏感でないという理由から、適当かと考えられます。

広義な技術的分野にサーチを限定する、例えば、分類とテキストサーチを連携する時に、コアレベル分類を利用するという事は、時には良い考えかもしれませんが(アドバンスレベルで分類されたドキュメントは、自動処理を介して対応するコアレベル分類もまた割り振られていることから、いずれにしても、自動的に検索されるでしょう)。

たとえ、アドバンスレベルサーチを行なったとしても、ある国のドキュメントは、コアレベルのみで分類されていることから、コアレベルで第 2 のサーチを行なうことが必要となります。

IPC が改訂された時、新しい分類体系に従って、全てのドキュメントが遅延なく再分類されたかをどのように確認することができますか?

分類体系への変更は、全てのドキュメントが再分類されるまで導入されることはありません。

現行の IPC1 版から 7 版の分類は、IPC8 版分類で書き換えられるのでしょうか?

ドキュメントに付与されている「古い」IPC (1-7 版) 分類は、ほとんどのデータベースで別のフィールドの中に残されます。従って、ユーザは、「新しい」IPC 記号とは独立してサーチすることができます。

アドバンスレベルは 3 ヶ月毎に改訂されます。これにより、3 ヶ月毎にサーチ戦略を適合させなければなりませんか?

WIPO は、サーチャーに、十分な準備時間を与えるために、全ての IPC 変更を前もって公布するでしょう。3 ヶ月毎の変更数は、制限されることが期待されます。そして、IPC 改訂管理委員は、与えられた分野で、変更は、そう頻繁に起こらないと考えています。

ドキュメントが、過去の IPC 版(1-7 版)で公開され、体系に何ら変更が無かった場合、新しい、改良された IPC は、古い IPC と同一なのでしょうか?

必ずしもそうではありません。2006年1月1日以前に発行されたドキュメント用の改良 IPC 分類は、異なる情報源から導き出されています。それらのほとんどは、ECLA から来ています (EPIDOS ニュース 3/2004 参照)。EPO 審査官は、ドキュメントに付与された IPC とは別に ECLA で分類します。ドキュメントの「古い」IPC と「新しい」IPC は異なります。より完璧な分類を提供する ECLA 分類規則によれば、多くのドキュメントは、「古い」IPC よりも、多くの「新しい」IPC を持ちます。

INPADOC からの ニュース



リーガルステータス提供がフィンランド特許庁で再開されました。

フィンランドからのリーガルステータスデータ提供が再開されました。1999年から2001年までのデータが、システムにロードされ、2004年の48週から利用可能となります。

今回、リーガルステータスには、特許補完証明書 (SPCs) とフィンランドで許可されたヨーロッパ特許のリーガルステータスも含まれています。

スロバキアの国内段階に移行した PCT 出願

スロバキア共和国に国内移行した PCT 出願データを 2004/49 週から収録します。このデータ蓄積期間は、1994年1月1日からです。

香港からのリーガルステータス

2,3 週間以内に、香港からのリーガルステータスが、リーガルステータスデータベースに収録されるでしょう。そして、全ての標準特許 (種別コード A1) と、定められた日付、おそらく 2004年9月2日まで有効な短期間特許 (種別コード A2) は、「有効である」として通知されることでしょう。

また、香港は PCT 出願の国内段階に移行した情報も提供するでしょう。

詳しいことは下記のアドレスから、新 IPG ニュースレター 03/04 をご覧ください。

<http://www.european-patent-office.org/inpadoc/news/inp/index.htm>

esp@cenet®は、ユーザニーズに沿うように進化する

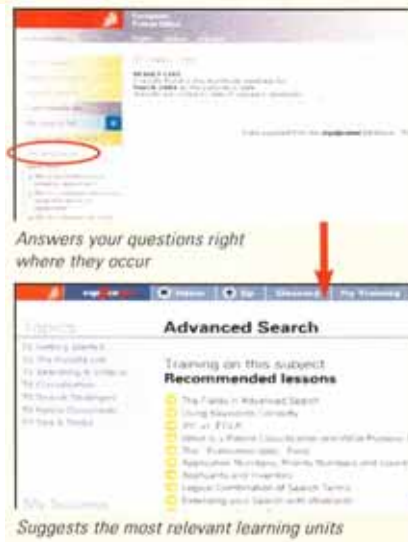
esp@cenet®の新しいバージョンが前年の11月、ルクセンブルグで開催されたEPIDOS年次会議の開催日時に合わせて開始されました。プラハで開かれた今年の年次会議では、たくさんの新しい製品が追加されたことで、初心者、熟練サーチャーのいずれのサーチャーにとっても、esp@cenet®は第1級のエンターレベル特許情報サーチツールとなりました。

新しいドキュメント表示画面

適切なAcrobat® Reader™のツールバーアイコンをワンクリックすることで、原稿画面の印刷、或いは保存ができる「マキシマイズ」コマンドの実行後は、まったくいらいらも、面倒もなくなりしました。また、ナビゲーションボックスを使って、ドキュメントの異なるセクションにジャンプすることもできます。他のAcrobat® Reader™機能が利用できますので、例えば、他のアプリケーション(ワードプロセッサ、グラフィックアプリケーション等)で見ると、pdfドキュメントの一部分をカット&ペーストすることができます。この開発は、数ヶ月後には実施される全文ダウンロードに向けた途中段階であります(1頁の記事を参照)。

Bibliographic data	Description	Claims	Abstracts	Original document	INPADOC legal status
Patent number: EP1372346 Publication date: 2003-12-17 Inventor: ANDERSSON, JYR (DE), WITZEL, ANDREAS (DE) Applicant: ERICSSON TELEFON AB L M (SE) Classification: H04G1/24 International: H04G1/24 Application number: EP2000001232 20020604 Priority number(s): EP2000001232 20020604	Operation of a switching node in a communications network comprising both a layered and a non-layered architectural environment			Also published as: WO03103310 (A1) WO0115475 EP1182900 J46979956 JP02200800	

esp@cenet®は、現在、一般文献(「XP」)ドキュメントの書誌的事項データにアクセスできます。これらは、特許ドキュメント以外の科学論文、URL、または、出版物を表しています。esp@cenet®ユーザは、審査官引例として、また、ECLAグループで分類されたドキュメントとして、或いは、直接、番号検索フィールドに既知のXPドキュメント番号を入力することに



より、XPドキュメントを目にするでしょう。データベースには百万件のXPドキュメントが収録されています。

esp@cenet®アシスタントに聞く

esp@cenet®アシスタントと呼ばれる文脈依存、オンライン e-learning サービスが開始され、新しいユーザや現在利用しているユーザのサーチの手助けを行なっています。彼らは、このサービスにより、esp@cenet®からもっとも適切な情報を入手します。

新しい esp@cenet®アシスタントは、次のようなことを手助けします。

生じた質問に、適切に回答を与えること。

インテリジェントで文脈依存アルゴリズムを介して最も適切な学習ユニットを選択すること。

自分自身のサーチをどのようにするかを学習すること。

探している発明を見つけ出すこと。興味があるドキュメントを検索すること。

新しい esp@cenet®アシスタントは、

esp@cenet®インターフェイス(EPサーバ)、または直接、次のアドレスにアクセスすることによりアクセス可能です。

<http://www.european-patent-office.org/wbt/espacenet/>

英語、フランス語、ドイツ語によるアクセスが可能です。

無料です。

ご質問や提案がございましたら、training.vienna@epo.org のRoland Feinäggleまでご連絡ください。

http://www.european-patent-office.org/wbt/espacenet/

esp@cenet® assistant

Answers your questions right where they occur

Advanced Search

Training on this subject Recommended lessons

Suggests the most relevant learning units

より、XPドキュメントを目にするでしょう。データベースには百万件のXPドキュメントが収録されています。

esp@cenet®アシスタントに聞く

esp@cenet®アシスタントと呼ばれる文脈依存、オンライン e-learning サービスが開始され、新しいユーザや現在利用しているユーザのサーチの手助けを行なっています。彼らは、このサービスにより、esp@cenet®からもっとも適切な情報を入手します。

新しい esp@cenet®アシスタントは、次のようなことを手助けします。

生じた質問に、適切に回答を与えること。

インテリジェントで文脈依存アルゴリズムを介して最も適切な学習ユニットを選択すること。

自分自身のサーチをどのようにするかを学習すること。

探している発明を見つけ出すこと。興味があるドキュメントを検索すること。

新しい esp@cenet®アシスタントは、esp@cenet®インターフェイス(EPサーバ)、または直接、次のアドレスにアクセスすることによりアクセス可能です。

<http://www.european-patent-office.org/wbt/espacenet/>

英語、フランス語、ドイツ語によるアクセスが可能です。

無料です。

ご質問や提案がございましたら、training.vienna@epo.org のRoland Feinäggleまでご連絡ください。

JPO での新しい体制

2004年10月1日をもって、日本特許庁(JPO)は、その特許情報活動をNCIPI(独立行政法人工業所有権情報館)に移行しました。

2001年4月に設立したNCIPIは、公報閲覧請求と技術移転の推進に責任を持つ独自の管理機関で、そのウェブサイトは、www.ncipi.go.jpです。今年の10月1日に組織変更された後も、NCIPIは、特許情報コーナーのために工業所有権デジタルライブラリ(IPDL)の責務を継承し、データ変更やデータ提供を管理しています。IPDLは、日本における工業所有権情報を無償で提供するインターネットサービスです。

IPDLの現在のURLは：
www.ipdl.ncipi.go.jpです。

EPO、アジアでの存在を強化

EPOは、特命を受けたスタッフのメンバーをバンコクに3年間出向させ、そこで、特許庁と他の機関との二者間関係の強化を行ないました。

このアジア強化の存在により、EPOは、EC-ASEAN知的財産権協力プログラム(ECAP II)を援助し、(www.ecap-project.org)、そして、このプロジェクトは、ヨーロッパ委員会により資金援助されるでしょう。

ECAPを通して、カンボジア、ベトナム、マレーシア、ラオスを含む9つの参加ASEAN国は、知的財産権の保護と執行に関して、ヨーロッパの専門家を頼ることができるようになります。

オリジナルプログラムであるECAP Iは、工業所有権に注目した地方セミナーと高レベルなミーティングを組織しました。ECAP IIは、これらの活動を、IPRの執行改善と知的所有権の全ての分野の意識

向上を盛り込む活動を拡大します。知的財産権の中には、特許、工業意匠、商標、著作権とそれに関連した権利、地理的表示、集積回路のレイアウトデザイン、非開示情報の保護、そして執行エリアが含まれています。

ECAP IIは、また、トレーニング、技術支援とシステム開発、及び情報ツール、マテリアルとデータベースの提供をカバーします。そして、ミーティングやセミナー、同様に奨学金、研究奨励金、研究滞在を通してIP意識を育てます。

詳しい情報は、バンコクのNiclas Morey (nmorey@ecap2.net)、ミュンヘンEPOのValentin Mir、あるいは、www.ecap-project.orgの相談窓口まで。

同業者イベント 2005 年： あなたの質問を EPO エキスパートに！

過去にもあったように、2005年も、EPOは多種多様な同業者フェアや年次総会に代表を送ることでしょう。その多くは、国内特許庁とコラボレーションし組織された者達です。

バイオテクノロジーとコンピュータを使った発明に関して、EUと業界の間の現在継続中の論議は、2005年度のイベントの選択に反映されます。その時、EPOはセミナーを公開し、また組織し、更に、色々なバイオテクノロジーとITイベントでプレゼンテーションを行なうことでしょう。

ここに2005年度の上半期用のイベントスケジュールを掲載します。

Dates 2005	Location	Event
January		
February		
22 to 24	Anaheim, CA, USA	APEX
March		
2 to 5	Bangkok, Thailand	Elenex
6 to 10	Marbella, Spain	IPI-Confex
April		
5 to 7	Göteborg, Sweden	Comdex
5 to 7	Munich, Germany	BioAnalytica
6 to 10	Geneva, Switzerland	International Exhibition of Inventions
11 to 15	Hanover, Germany	Hanover Fair
13 to 15	Lyon, France	BioSquare
19 to 22	Budapest, Hungary	CHEMEXPO
May		
10 to 13	Bratislava, Slovakia	COFAX (Computer & Telecom)
11 to 15	Bucharest, Romania	ConstructExpo
17 to 19	Sinaia, Romania	PATLIB Conference
21 to 26	Arlington, Virginia, USA	PIUG user group
24 to 27	Basle, Switzerland	Orbit-iEX
24 to 27	Basle, Switzerland	ILMAC
June		
2 to 3	Ilmenau, Germany	Patinfo
7 to 9	Paris, France	i-expo
9 to 11	Dornbirn, Austria	Intertech
19 to 22	Philadelphia, USA	Bio 2005
20 to 23	Poznan, Poland	Fair of Industrial Technologies & Investment Goods

新しくなった epoline®の概観と雰囲気

刊行物

ニュース

「刊行物コーナ」は、読者に統計と一般的な EPO 刊行物に関する情報を提供する EPIDOS ニュースの定期的記事です。

特許発行件数

Patent publications

January - December 2004	2004		
	Weekly average	Total Jan-Dec 2004	Change vs. 2003
EP-A documents			
EP-A1	726	34 475	29.2%
EP-A2	409	21 662	-13.3%
Total EP-A1 + A2	1 135	60 137	9.8%
Percentage EP-A1 of total A1+A2			64.0%
EP-A3	556	29 470	-4.6%
EP-B documents			
EP-B1+B2	1 122	59 846	-3.9%

EP-A1: サーチレポート付きヨーロッパ特許出願

EP-A2: サーチレポートなしのヨーロッパ特許出願

EP-A3: ヨーロッパサーチレポート

EP-B1: ヨーロッパ特許公報

EP-B2: 補正されたヨーロッパ特許公報

注釈: 表には、PCT ルート(Euro-PCT)を経由したヨーロッパ特許出願の統計は含まれていません。それらは、WIPOで公開され、英語、フランス語、ドイツ語以外の言語でなければEPOでは入手できません。現在、ヨーロッパ特許出願の約60%がEuro-PCT出願です。

サーチおよびドキュメンテーションに関するワーキング方法セミナー2005

EPO は、サーチとドキュメンテーションに関しては世界の先導者であります。私達のワーキング演習は、常に進化し、産業の同じフィールドで働く人々に私達の知識を分け与えること、そして、産業展望について更に多くのことを見出すことに熱心であります。

そのために、私達は、民間企業内の特許サーチャー、特許弁理士事務所、大学などのためにセミナーを組織しました。まずはじめに、EPO で使用している最新方法でプレゼンテーションを行なった後、続いて、プログラムをより専門的なワークショップの範囲に進め、最終的には、選択した分野で一日審査官と一緒にサーチを行なうオプションで締めくくります。

セミナーは無償で、2005年4月4日から7日の4日間、ハーグのEPOで開催されます。

詳しくは、

<http://www.european-patent-office.org/dg/1/training/sfa/2005.htm>まで。

このセミナーに参加を希望する方は、2005年1月31日までに登録してください。

Eugenio Archontopoulos,
電話: +31 70 340 2673
e-mail: earchontopoulos@epo.org

ユーザにやさしい使い易さの改善を目的として、epoline®オンライン製品とサービスの設計変更に関する相当大がかりな努力がなされました。

この行程の第1段階は、ユーザに、epoline®に関する単一コンタクト点を提供する全体的な構想を開発することでした。汎用性、ユーザによるカスタマイズ可能な環境と異なるセキュリティレベルが設計のキーポイントでした。

第2段階は、2003年にMy.epoline®を導入することでした。実際、全てのepoline®ウェブサービスを盛り込んだカスタマイズ可能なインターフェースは、最初のリリースでは、単に制限された範囲の製品、即ち、ワンパスワード保護サービス(WebRegMT-登録モニタリングツール)と3つの保証サービス(非公開特許明細書に許可されたユーザのアクセスを認めた安全な包袋閲覧、Myファイル、メールボックス)でした。

その時から、かなり改良を重ね、今現在、より豊富なMy.epoline®エリアを含む新しいepoline®ポータルウェブサイトを立ち上げました。

特徴を持っています。

EPOのウェブサイトのものと一致する、そしてEPOインターネットデザインチームとコラボレートして設計した新しい概観と雰囲気。

3つの一貫したサービスセットを含む3つのアクセスレベル(パブリック、ユーザ名とパスワード、スマートカード)。

さらなる統合サービス:例えば、epoline®ウェブサイト、オンライン料金支払い、そしてレジスタープラス等。

epoline®ユーザは、いまだ異なるアクセスレベルを持っていますが、これからは、epoline®パブリックとMy.epoline®保証製品・サービスとの間を切り替える必要はありません。

これからの12ヶ月間で、私たちは次のゴールを目指します。

統合の更なる改善。

残っている不一致性を取り除いた一貫性の強化。

グローバルな統治とファイル管理に使用するツール範囲の拡大。

*2004年11月23日のepoline®会議で実施された新しいIRegister Plus online servicesは、Online European Patent Register, online Public File Inspection, esp@cenet®, Open Patent Services (INPADOCリーガルステータス)を介して利用できる情報に連携アクセスを提供する「ワンストップショップ(一カ所で何でも揃う場所)」です。詳しくは、www.epoline.orgの「Register Plus」タブをクリックしてください。より詳しい記事は、次回のEPIDOSニュースをご覧ください。

新しい epoline®の概観と雰囲気



3つの一貫したサービス群の3種類のアクセス画面



ESPACE EP-P と EP-B が統合

2005年1月から、ESPACE EP-A と ESPACE EP-B が、ESPACE EP DVD と表示された 1 つの DVD-ROM で配送されます。例えば、2003年の第1週の配布は5つのディスクでしたが、これからは、ユーザは、1つのディスクで一週間のすべてのEP刊行物(AとBドキュメント)を楽しむことができます。購読者は、メールでより詳しい情報が送られてくるでしょう。また、この新しいDVDの全文は、次のウェブサイトでも見ることができます。

[www://patentinfo.european-patent-office.org/index.en.php](http://www.patentinfo.european-patent-office.org/index.en.php)

新しい 特許情報 ウェブサイト

EPO は、一つの画面の中にヨーロッパ特許情報のすべての入り口を一同に載せた新しいウェブサイトを立ち上げました。EPO のホームページからそのサイトにリンクするか、直接、
<http://patentinfo.european-patent-office.org> にアクセスしてください。

EPO の特許情報会議：ブダペスト 2005

ハンガリー特許庁は、2005年の特許情報会議をブダペストで開催するためにEPOを快く招待してくれました。会議は、2005年11月8-10日、Crinithia grand Royal Hotelで開催されます。この会議のウェブサイトは、最新版に更新されることがありますが、現在、利用可能です。
www.european-patent-office.org/epidos/conf/epic2005

Some important telephone numbers

Information service
Tel.: +43 1 52126 4051
Fax: +43 1 52126 4533
e-mail: infowien@epo.org
EPO on the internet
www.european-patent-office.org
Tel.: +43 1 52126 4032
Fax: +43 1 52126 3292
e-mail: webteam@epo.org
Paper publications
Tel.: +43 1 52126 4548
Fax: +43 1 52126 2491
e-mail: docdeliv@epo.org
ESPACE helpdesk
Tel.: +43 1 52126 2411
Fax: +43 1 52126 2492
e-mail: cdhelp@epo.org

Our Information Services in Munich +49 89 2399 4512, The Hague +31 70 340 4500 and Berlin +49 30 25901 111 continue to be open for your inquiries.
Or you can write to us at: European Patent Office, Rennweg 12, Postfach 90, A-1031 Vienna
www.european-patent-office.org

Subscriptions
Tel.: +43 1 52126 4546
Fax: +43 1 52126 2492
e-mail: subs@epo.org
INPADOC helpdesk
Tel.: +43 1 52126 115
Fax: +43 1 52126 3292
e-mail: inpadoc@epo.org
Japanese patent information
Tel.: +43 1 52126 4545
Fax: +43 1 52126 4197
e-mail: jpinfo@epo.org
Training
Tel.: +43 1 52126 1043
Fax: +43 1 52126 4533
e-mail: training.vienna@epo.org
Switchboard Tel.: +43 1 52126 0

Impressum

Publisher: Wolfgang Pilch
Managing Editor: D. Shalloe
Contributors: P. Avedikian, D. Bradley, N. Clarke, R. Feinäugle, V. Gray, P. Le Gonidec, L. McDonald, H. Moohan, P. Paris, W. Pilch, V. Rogier, I. Schollner, D. Shalloe, V. Vajsbaßer, H. Wongel
Design: Atelier 59, Munich
Epidos News is published by the Principal Directorate Patent Information, European Patent Office, Vienna sub-office, Rennweg 12, Postfach 90, A-1031 Vienna, Tel: +43 1 52126 0
The opinions expressed in this publication are not necessarily those of the EPO.
EPIDOS is a registered trade mark.



このEPIDOS Newsの英文による原文は、ヨーロッパ特許庁により発行されたものです。また、ヨーロッパ特許庁のご好意によりこの発行物の日本語訳が許可されたものです。従って、本掲載文に関する著作権は、ヨーロッパ特許庁と株式会社ワイゼルにありますので、許可なく無断で利用することを禁じます。